

## CACS FORUM No.11 発行に寄せて

研究機構長 重原 孝臣

本学には、理学部・工学部・教育学部を中心に、化学系・生物系の研究・教育に携わる教職員・学生が多数おります。科学分析支援センターは、化学系・生物系の研究・教育活動を支援すべく、物質の構造や性質を分析するための各種分析機器の維持管理、学内の薬品管理、実験系廃棄物の回収・外部処理依頼および構内排水の水質検査、放射性同位元素を用いた実験を行うアイソトープ実験施設や実験動物を飼養保管する飼育室の維持管理、液体窒素の提供等の多岐に渡る業務を担う学内共同利用施設です。機関誌「CACS FORUM」は、本センターに関わる学術研究の成果や日々の活動状況を報告するために年 1 回発行している広報誌です。2010 年より発行を開始し、本号で 11 号になります。

科学分析支援センターは、1980 年 4 月 1 日に設立された分析センターが母体になっています。分析センターは、「物性測定用の高価な分析機器を集中管理して全学的な有効活用を進め、もって理工系の研究・教育の高度化に資する」という趣旨のもとに設立された学内共同利用施設であり、この趣旨は現在も脈々と受け継がれています。同種の施設としては全国 3 番目の設立であったそうです。その後、分析センターは 2003 年にアイソトープ実験施設と動物飼育室を統合して総合科学分析支援センターに改組され、2005 年に再度の改組で総合研究機構（現在の研究機構）に属する科学分析支援センターとなり、2006 年に廃液処理施設を統合して現在に至っています。分析センター設立から、今年はちょうど 40 年の節目に当たります。

現在、本センターでは、核磁気共鳴装置、質量分析装置、分光光度計、X 線回折装置、走査型電子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡等、個々の研究室では維持しえない大型・高性能な分析機器を多数設置し、広く全学に開放しています。安全確保等の観点から、機器の使用はライセンスを取得した教職員・学生に制限しており、ライセンス取得のための講習会の実施も本センターの重要な業務になります。これに加え、学内外や企業から講師を招き、基礎から最先端までの分析機器に関するセミナーを開催し、科学分析に関する情報提供も行っています。機器の予約はインターネットによる予約システムを通じて行い、利用者への利便性を図っています。本センターが所有する分析機器の多くは学外にも公開されており、学内外からの依頼に応じて分析を代行するサービスも実施しています。

この原稿は 2020 年 8 月末に執筆しています。ご承知のとおり、年初よりの新型コロナウイルス感染症の世界的流行のなか、遠隔授業の導入、テレワークの導入、感染リスク最小化のための研究環境の整備等、本学の研究・教育活動のあり方は大きく変化しています。今後も、状況の変化に応じて適時的確な臨機応変な対応が求められます。本センターの活動も例外ではありません。新たな環境のなかで、本センターの活動をどのように維持・発展させるか、皆様のお知恵を拝借せねばならない場面も多々あるかと存じます。本センターの運用について、ご意見・ご要望をお持ちの方は、ご遠慮なさらずお知らせください。限られた資源のなかで可能な限りの対応にはなりますが、善処させていただきます。今後とも、本センターの活動にご理解・ご支援たまわりますように、どうぞ宜しくお願い申し上げます。